

「先生言わんといて、わかったから」

自己肯定感を培う授業実践とは

NPOゆめ 竹上 道邦
(元特別支援学級 担任)

積んだたこやきの箱をじつとながめていたMくんの突然の声

「待って、先生！ わかったから、今、言わんといて」

「かけ算使ったらいいんや！」

「そうや、すごいなあ！Mくん大発見やなあ」竹上

「全部で、45個や」

Mくんは、得意気に電卓を使って、自分で答えを出しました。



うーん！何個かなあ？

学習障害の診断を受けて、3年生から特別支援学級に入級してきたMくん。

ひらがなが覚えられない。ひき算ができない。一生懸命覚えても、しばらくすると答えが出てこず、また一からです。

「なんで、ぼくはおぼえられないの？」「一生懸命、たし算を覚えても、みんなは、もっと難しいことをしている」「もう大きくなりたくない」

授業では、意味がわからず、疲れて寝ていることも多くなっていたMくん。

覚えさせようとすればするほど、「自分はダメだ」を積み重ねることになってしまったのではないのでしょうか。通常学級での様子に悩んだ担任・保護者はいろんな相談機関にかかり、特別支援学級に入級することになりました。

おぼえることよりも、わかることを大事に。

かけ算の意味をしっかりとわかるような授業を！と、図工の好きなMくんと作ったたこ焼きで、かけ算の授業をしました。

「9個ずつたこやきが入った箱が5箱あります。全部でたこやきは何個ですか？」

たし算で答えを出そうとするMくん。くり上がりのたし算が苦手で、答をうまく出せず泣き出すこともありました。

かけ算の意味がわかり、どんな時にかけ算を使うのかを発見したMくん。まだ、九九は全部覚えることはできませんが、生活の中でしっかり活用できるようになりました。

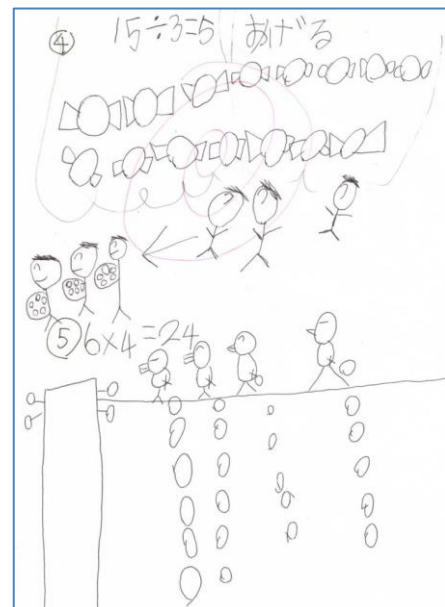
繰り返し練習。早く、正確に！

推進される「学力テストでいい点を取るための教育」

子どもたちのためには

わかった、そうや！自分で発見し、認めてもらえる。

授業の中でこそ、自己肯定感、達成感を！



Mくんの描いたわり算、たし算の絵